

平成26年度 普通会計決算見込みのポイント

大分県

1 県内消費の喚起や社会保障の充実などに取り組む一方、九州北部豪雨災害の復旧や国の補正予算に伴う基金積立の減などにより、歳入歳出規模は縮小
県税の3年連続の増収や不断の行革により、実質収支・単年度収支ともに黒字を確保

◆歳入 568,937百万円 (△4.5%)

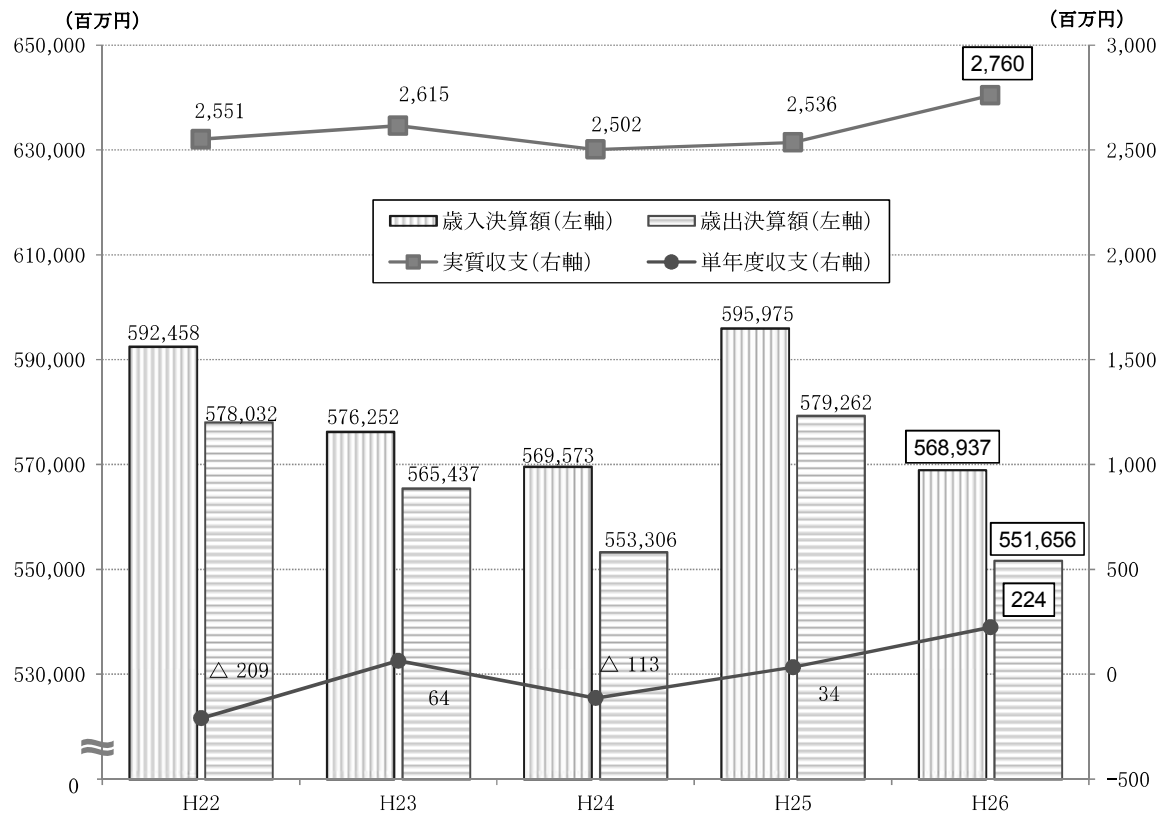
・企業業績の回復などにより法人二税、地方消費税等が増収したことなどから、県税が3年連続で増加。一方で、災害復旧事業や国の緊急経済対策の縮小に伴い、国庫支出金及び県債が減少。

◆歳出 551,656百万円 (△4.8%)

・九州北部豪雨災害の復旧の減等により投資的経費が減少するとともに、国の緊急経済対策に係る基金積立が減少。一方で、平成25年度の給与特例減額の終了や、国民健康保険の保険料軽減対象拡大等により、人件費や社会保障関係費などの義務的経費が増加。

◆実質収支 H25 2,536百万円 (黒字) →H26 2,760百万円 (黒字)

◆単年度収支 H25 34百万円 (黒字) →H26 224百万円 (黒字)



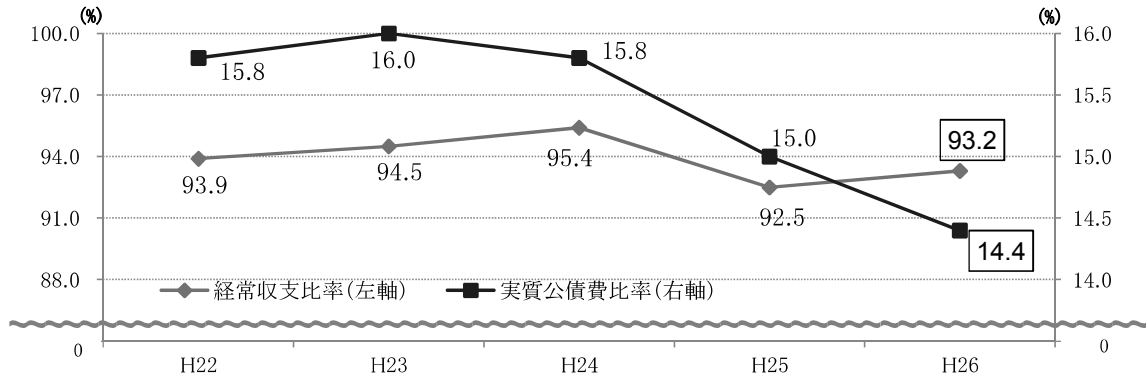
◆社会保障施策に要する経費

・地方消費税率引上げ分 (2,418百万円) の使途

社会保障の充実	1,319百万円	〔国民健康保険・後期高齢者医療に係る保険料軽減の拡充、子育て支援対策充実事業など〕
社会保障の安定化	1,099百万円	

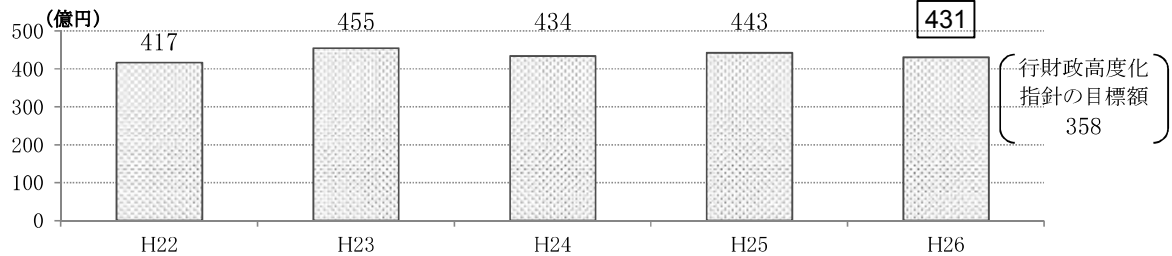
2 財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、平成25年度の給与特例減額の影響や社会保障関係費の増加により上昇するものの、実質公債費比率などの財政健全化4指標はいずれも改善

◆ 経常収支比率	H25	92.5%	→H26	93.2%	
《財政健全化4指標》 ※【基準】：早期健全化基準					
◆ 実質公債費比率	H25	15.0%	→H26	14.4%	【基準 25.0%】
◆ 将来負担比率	H25	173.0%	→H26	165.7%	【基準 400.0%】
◆ 実質赤字比率	H25	なし(参考▲0.78%)	→H26	なし(参考▲0.85%)	【基準 3.75%】
◆ 連結実質赤字比率	H25	なし(参考▲5.71%)	→H26	なし(参考▲6.53%)	【基準 8.75%】



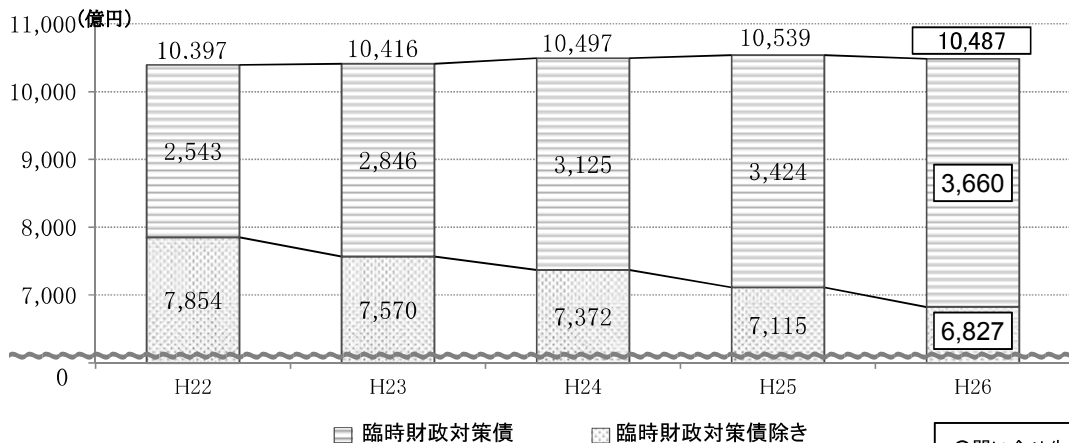
3 財政調整用基金残高は、行革実践力の発揮などにより行財政高度化指針の目標額を確保
県債残高は、発行抑制に努めたことなどにより総額で減少、臨時財政対策債を除く残高も13年連続で減少

◆ 財政調整用基金残高 H25 443億円 →H26 431億円 (△ 12億円)



◆ 県債残高 H25 10,539億円 →H26 10,487億円 (△ 52億円)

(臨時財政対策債除く県債残高 7,115億円 → 6,827億円 △288億円) ※13年連続で減少



○問い合わせ先
財政課 金子(内2362)